

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだよ!
 令和5年4月発行・第192号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL: 0952-31-6877

4月の生活目標

♪薄着の習慣を付けましょう
 ♪戸外で元気に遊びましょう



❀ 4月～6月の予定 ❀

※4月の支援の予約は、4/17(月)の9時半から
 受付けます。

月	日	曜	実施グループ名
4	18	火	シニアサロン
	24	月	フリーデー
	25	火	フリーデー
5	9	火	フリーデー
	10	水	フリーデー
	12	金	フリーデー
	15	月	環境講座
	24	水	じゃがいも掘り体験
	25	木	じゃがいも掘り体験
6	30	火	シニアサロン
	5	月	なかよし2歳
	6	火	なかよし1歳
	8	木	なかよし1歳
	9	金	赤ちゃんの日
	12	月	シニアサロン
	13	火	リフレッシュ講座
	15	木	ベビーマッサージ講座
	19	月	ミックス
	20	火	フリーデー
21	水	フリーデー	
22	木	フリーデー	

「シニアサロンぽぽら」

5月30日(火) 10時から12時
 →新茶を味わいましょう。

「今年度の活動」

先週末、多布施川沿いの満開の桜の下では、4年ぶりに花見を楽しむ人たちでいっぱいでした。ベンチから愛でる人、時折花びらが散る広場で遊ぶ親子、ランニングする人等々、活気が溢れる光景でした。

先週行われたWBCでは、世界中の人達が自国の勝敗だけではなく、その場面を共有することを体中で喜んでいたように感じました。3年間、じっと我慢をしていた分、喜びや楽しさが一段と心に届きました。

さて、普通の日常に戻りつつある中で、ぽぽらの利用者アンケートには参加の機会を増やしてほしい要望がたくさんありました。本年度の計画は、1回の参加者数を少し増やし、休止していたメニューも復活させます。

どんな活動になるか、楽しみです。

ぽぽらを介して、育児の悩みを共有したり、親子の友達作り、お父さん方の交流、情報交換、地域の方々との交流など、楽しんでいただけたら幸いです。

今年度も、どうぞよろしく願いいたします。

(三光保育園園長)

永原学園三光保育園地域子育て支援センターでは

以下のような事業をしています

- 年8回実施。親子で登園し、一緒に楽しめます。
 ☆赤ちゃん(0歳)の日…月の初めに電話で予約。
- 月に一度親子で登園し、一緒に楽しめます。(登録制です)
 ☆なかよし1歳 }
 ☆なかよし2歳 } 4/24・25に申し込みを受け付けます。
- 就学前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して楽しく集う場です。
 ☆ミックス・・・年8回実施。月の初めに電話で予約。
- 支援センター内を開放します。
 ☆フリーデー・・・月1～3回実施。4月は4月17日に電話で予約。5月以降は、自由来館制に変えます。
- 地域の方々に「さんこうぽぽら」におこしいただき、集いの場として楽しいひと時を過ごします。
 ☆シニアサロンぽぽら・・・月1回実施
- その他
 ☆親子クッキング(8月) ☆じゃがいも掘り体験(5月)
 ☆リフレッシュ講座(年1回) ☆さつまいも掘り体験(10月)
 ☆育児講座(年8回) ☆公園で遊ぼう(3月)

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

子育て便り

子どもと一緒に「今」を楽しむ

西九州大学 短期大学部

幼児保育学科 講師 金丸智美

新年度を迎え、入園、入学や進級など、新たな環境での生活がスタートしました。毎日が慌ただしく過ぎていく子育て中においても、特に4月はまだまだ生活リズムがつかめず、余裕のない日々になりがちです。

私も3人の子どもの子育て真っ只中ですが、「これをしなきゃ」「あれもしていなかった…」と気持ちばかりが焦り、ついつい「ながら」子育てになってしまっています。食器を洗いながら子どもを注意する、仕事をしながら子どもの宿題をみる、考え事をしながら子どもを寝かしつけるなど、自身の生活を振り返ると「ながら」ばかりです。しかし、冷静に振り返ると「ながら」子育てをしながらも、時間を有効に活用できているという実感が持てません。例えば、食器を洗いながら子どもに「おもちゃを片付けて」と言っても、絶対に1回では片付けてくれません。何度声を掛けても動く気配すらなく、結局、食器洗いの手を止めて一緒に片づけることもしばしばです。考え事をしながら寝かしつけている時、子どもは全然寝てくれませんが、子どもの話を聞きながら寝かしつけることに集中していると、意外と早く寝てくれます。もしかしたら、「ながら」の子育てでは声も気持ちも十分に伝わらず、互いにおぎなりの状態なのかもしれません。

さて、私は普段、保育者を目指す学生に授業を行っていますが、特に重要なテキストの一つに保育所保育の基本となる考え方が書かれた「保育所保育指針」というものがあります。保育所保育指針には、乳幼児に対する保育者の関り方のポイントが書かれていますが、「受容的・応答的」という言葉は特に何度も繰り返し出てくる最重要ワードです。端的に言えば、「子どもの欲求、思いや願いを敏感に察知し、その時々状況や経緯を捉えながら、時にはあるがままを温かく受け止め、共感し、また時には励ます」ことが重要だということです。これは保育者に限ったことではなく、家庭での子育てにおいても大切なことだと言えます。しかし、子どもの些細な変化を敏感に察知し対応することは、とても「ながら」ではできません。どんなに忙しくても、子どもに100%の気持ちで向き合うことが必要なのだと改めて気づかされます。

もちろん、家で過ごす時間全てを子どもに100%の気持ちで向き合うなんて、現実的ではありませんし、頑張りすぎても疲れてしまいます。ですので、ほんの少しの時間、例えば毎日10分や15分だけでも良いのです。焦る気持ちはひとまず横に置き、仕事や家事のことを忘れ、ひたすら子どもと「今」を楽しむ、「今」を大切にする。これこそが、子育て中の今しかできない有意義な時間の使い方なのかもしれません。